

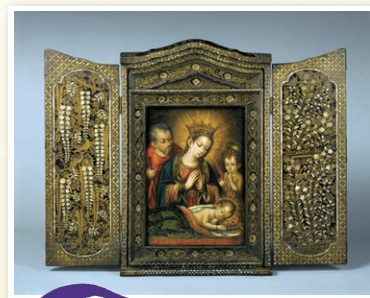
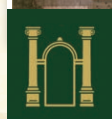
2016

平成28年度 独立行政法人

国立文化財機構 概要



TNM



KYUSHU NATIONAL MUSEUM



目次

ごあいさつ	1
I 国立文化財機構のあらまし	2
II 国立文化財機構の事業	5
1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した 歴史・伝統文化の国内外への発信	5
(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承	5
■収集	
■保存・修理	
(2) 展覧事業	5
■展示・公開	
■博物館来館者数	
(3) 教育普及活動等	6
(4) 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・ 教育普及活動等に関する調査研究	6
(5) 国内外の博物館活動への寄与	6
2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、 協力事業等の実施	6
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	6
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	7
(3) 文化遺産保護に関する国際協働	7
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の 公開・活用	7
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	7
III 各施設の活動	8
東京国立博物館	8
京都国立博物館	10
奈良国立博物館	12
九州国立博物館	14
東京文化財研究所	16
奈良文化財研究所	18
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	20
IV 資料	22
役員等一覧	
役員／運営委員会／外部評価委員会	
職員数	
組織図	
予算	
外部資金受入	
国立文化財機構からのお知らせ	24
寄附・寄贈	
会員制度	
ユニークベニュー	
海外からのお客様への対応	

(表紙写真)



東京国立博物館：
国宝 洛中洛外図屏風（舟木本）
（らくちゅうらくがいずびょうぶ
ふなきぼん）（部分） 岩佐又兵衛
筆 江戸時代・17世紀



京都国立博物館：
重要文化財 阿国歌舞伎図屏風
（おくにかぶきずびょうぶ） 桃
山時代・17世紀



奈良国立博物館：
国宝 薬師如来坐像（やくしによ
らいざそう） 平安時代・9世紀



九州国立博物館：
重要文化財 花鳥蒔絵螺鈿聖龕
（かちょうまきえらでんせいがん）
安土桃山時代・16～17世紀



東京文化財研究所：
無形文化遺産の調査（壬生の花田
植の飾り牛 北広島町）



奈良文化財研究所：
ミャンマーでの遺跡整備研修



アジア太平洋無形文化遺産
研究センター：
伝統工芸の復興と生活再建への活
用に向けたワークショップ

ごあいさつ

佐々木 丞平

独立行政法人国立文化財機構理事長



国立文化財機構は4つの国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）、2つの文化財研究所（東京文化財研究所、奈良文化財研究所）、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの7つの施設で構成されていますが、この冊子はこれら7施設の概要並びに活動状況をご紹介します。

これら各施設はそれぞれに担うべき大きな役目を持っていますが、その総てに共通しているのは、文化財を守り、研究し、それを多くの人々にできる限りよい状態で、かつよい環境で見えていただき、日本の伝統文化への理解を深めて頂く手助けをしようという点です。その意味で私共は国の文化財保護行政の基盤を支えるという大きな役割を担っています。

さて、本年4月から第4期中期計画がスタートしました。独立行政法人となって15年、機構となって9年が経過したことになります。国の行政改革の一環として独立行政法人化され、当初は手探りの状況でありましたが、3期の経験の中で国立博物館、文化財研究所及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターも、それぞれの特色を活かした運営の確立を着実に進めつつあります。また第2期には奈良国立博物館「なら仏像館」リニューアル(2010年)、第3期には東京国立博物館東洋館リニューアル(2013年)、京都国立博物館平成知新館の開館(2014年)、第4期中には奈良文化財研究所本庁舎完成(2019年予定)、東京国立博物館本館リニューアル工事着工、京都国立博物館明治古都館耐震工事着工など、施設整備の充実も進んできています。

機構全体にかかる事業として、2019年にICOM京都大会や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控えています。この機会を日本の多様な文化の十分な理解を促進し、文化財資源の積極的な活用を図る絶好の機会と考え、文化を通じた世界の人々の往来、交流を日本国中に生み出し、「真の文化芸術立国の実現」に向けて国立文化財機構として様々な取り組みを行ってまいります。

なお、第3期スタートの年は東日本大震災が、また第4期スタートの年には平成28年熊本地震が起り、甚大な被害が発生しております。東日本大震災の経験を基に、こうした巨大地震等大規模災害に対応した文化財等の救援・修理等の適切な処置を行うため、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制作りに向けた検討を行ってまいります。

大変厳しい国家財政の中での活動ですが、文化財を守る、そしてそれを多くの人々に鑑賞して頂き、知って頂くということが、現代の日本文化を生きることと深く関わり、重要な意味を持っていることを十分理解して頂けるよう、伝統文化に携わる側から発信していかなければならないことであり、それは私共の責任であると考えます。

これからも私共の果たすべき役割を充分認識し、仕事に邁進していく所存でありますので、何卒よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立文化財機構のあらまし

独立行政法人国立文化財機構は、ともに文化財の保存及び活用という同一の目的を有する独立行政法人国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と、独立行政法人文化財研究所（東京文化財研究所、奈良文化財研究所）の二つの法人の統合により、平成19年4月に発足いたしました。平成23年10月に開所したアジア太平洋無形文化遺産研究センターを加え、現在では7つの施設で構成されています。

統一的なマネジメントの下で、貴重な国民的財産である文化財の保存・活用を一層効果的かつ効率的に推進するため、各施設はそれぞれ次のような役割を果たしています。

東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

九州国立博物館

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

東京文化財研究所

我が国の文化財の研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで多様な手法により行い、成果を積極的に公表・活用するとともに、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流等を実施する国際協力の拠点としての役割を担っています。

奈良文化財研究所

平城宮跡に隣接し、遺跡・建造物・庭園等の土地に結びついた文化財及び南都諸大寺及び近畿周辺を中心とした古社寺等における文化財の保存・活用を図るために発掘調査・研究を行うとともに、全国各地の発掘調査等に対する協力・助言等を行っています。

アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域における危機に瀕した無形文化遺産保護のための調査活動や、無形文化遺産保護の国際的動向に関する情報収集と配信を行っています。



東京国立博物館



〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
TEL: 03-3822-1111 (代表)
<http://www.tnm.jp/>

周辺地図



JR上野駅公園口、または鶯谷駅南口から徒歩10分
東京メトロ上野駅、根津駅、京成電鉄京成上野駅から徒歩15分

利用案内

開館時間／9:30～17:00（入館は閉館の30分前まで）
4月～12月の特別展開催期間中の金曜日および7月～8月の水曜日は20:00まで
4月～9月の土日祝休日は18:00まで
休館日／月曜日（祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館）
年末年始（12月24日～1月1日）
※特別展やイベント等の開催に伴い、開館時間・休館日は変更になることがあります

観覧料／一般 620 (520) 円 大学生 410 (310) 円
※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金
※障がい者とその介護者1名は無料
※満70歳以上、高校生以下・満18歳未満は総合文化展について無料
※国際博物館の日（5月18日）。ただし月曜日に当たる場合は翌日、敬老の日は、総合文化展について無料



京都国立博物館



〒605-0931
京都府京都市東山区茶屋町527
TEL：075-541-1151
<http://www.kyohaku.go.jp/>

利用案内

開館時間／9：30～17：00（入館は閉館の30分前まで）
入館は各閉館の30分前まで（特別展覧会開催期間中は18：00まで、金曜日は20：00まで）
休館日／月曜日（月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館）、年末年始、10月14日（金）
観覧料／一般 520（410）円 大学生 260（210）円
※（ ）内は20名以上の団体料金 ※高校生以下および18歳未満、満70歳以上の方は無料
※障がい者とその介護者1名は無料
※特別展覧会は別料金
※名品ギャラリー休館中は別料金

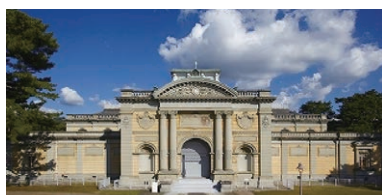
周辺地図



JR・近鉄京都駅下車、駅南バスD1のりばから100号、D2のりばから206・208号系統にて博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ
京阪電車 七条駅下車、東へ徒歩7分
阪急電車 河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分
又は、河原町駅下車、四条河原町からバス207号系統にて東山七条下車、徒歩3分
※駐車場は有料となっております。ご来館はなるべく公共交通機関をご利用ください。



奈良国立博物館

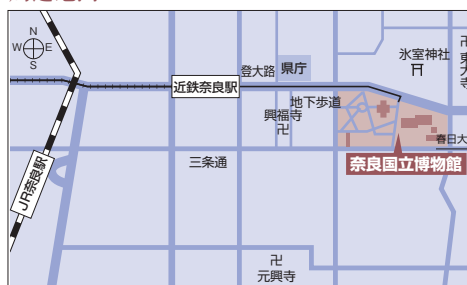


〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50
TEL：0742-22-7771
<http://www.narahaku.go.jp/>

利用案内

なら仏像館は改修工事のため休館しておりましたが、平成28年4月29日、リニューアルオープンいたしました。
開館時間／9：30～17：00（入館は閉館の30分前まで）
※正倉院展期間中は、9：00～18：00、7月23日～9月19日及び3月1日～11、13、14日は、9：30～18：00まで開館
※4月最終から10月最終までの毎金曜日、正倉院展期間中の毎金・土・日曜日及び祝日、8月5日～8月15日、12月17日、1月第4土曜日、2月3日、3月12日は19：00まで開館
なら瑠璃絵期間（2月8日～14日）は、20：30まで開館
休館日／月曜日（祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館）、1月1日

周辺地図



近鉄奈良駅下車 登大路を東へ徒歩15分
JR奈良駅または近鉄奈良駅から市内循環バス（外回り）「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

観覧料／一般 520（410）円 大学生 260（210）円
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金
※障がい者とその介護者1名は無料
※満70歳以上、高校生以下・18歳未満は名品展について無料
※こどもの日、国際博物館の日（5月18日）。ただし月曜日にあたる場合は翌日、敬老の日、関西文化の日、おん祭お渡り式の日、節分は名品展について無料



九州国立博物館



〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
TEL：092-918-2807（代表）
<http://www.kyuhaku.jp/>

利用案内

開館時間／9：30～17：00（入館は16：30まで）
休館日／月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は開館、翌日休館）、年末文化交流展（平常展）観覧料／一般 430（220）円 大学生 130（70）円
※（ ）内は団体料金（有料の方が20名以上の場合）
※特別展は別料金
※障害者手帳等をご持参の方とその介護者1名は無料
※満70歳以上、高校生以下・18歳未満は文化交流展（平常展）について無料
※国際博物館の日（5月18日）。ただし休館日にあたる場合は翌日）および敬老の日は、文化交流展（平常展）について無料。

周辺地図



鉄道 西鉄電車：西鉄福岡（天神）駅から西鉄天神大牟田線（特急約13分/急行約17分）で西鉄二日市駅乗り換え、西鉄太宰府線（約5分）で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分。
※特急/急行料金不要
JR：JR博多駅からJR鹿児島本線（快速約15分）でJR二日市駅下車、JR二日市駅から西鉄二日市駅（徒歩約12分、バス約5分）、西鉄二日市駅から西鉄太宰府線利用。
自動車 九州自動車道：太宰府ICまたは筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分。
福岡都市高速：水城出口から高雄交差点経由で約20分。
JR二日市駅から約15分・福岡空港から約30分。
博多バスターミナル（1階11番のりば太宰府行き）から西鉄太宰府駅下車（所要時間約40分）、徒歩約10分。

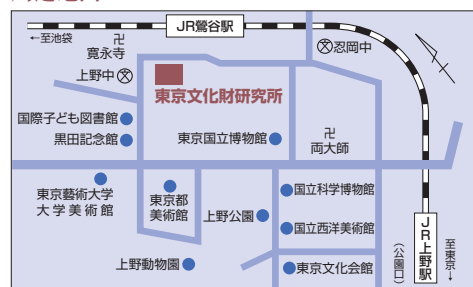


東京文化財研究所



〒110-8713
東京都台東区上野公園13-43
TEL : 03-3823-2241 (代表)
<http://www.tobunken.go.jp/>

周辺地図



JR鶯谷駅南口下車 徒歩10分
JR上野駅公園口下車 徒歩15分
東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅下車 徒歩20分、千代田線根津駅下車 徒歩20分
京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩20分

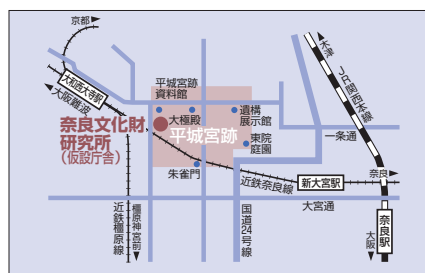


奈良文化財研究所



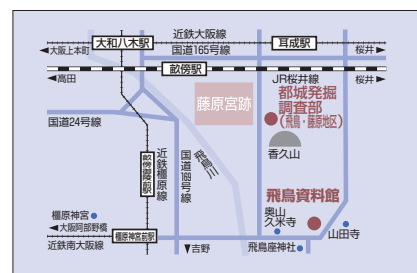
〒630-8577 奈良県奈良市佐紀町247-1
TEL : 0742-30-6733 (代表)
<http://www.nabunken.go.jp/>

周辺地図 奈良地区



●鉄道利用の場合
奈良文化財研究所・平城宮跡資料館
近鉄大和北大寺駅北口より徒歩10分
●バス利用の場合
JR・近鉄奈良駅より奈良交通バス
奈良文化財研究所・平城宮跡資料館「二条町」下車

飛鳥・藤原地区



都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)
飛鳥資料館
近鉄大和八木駅よりタクシーで20分
近鉄橿原神宮前駅よりタクシーで20分
近鉄橿原神宮前駅・飛鳥駅より明日香周遊バス(かめバス)「飛鳥資料館」下車近鉄桜井駅より奈良交通バスで「飛鳥資料館」下車

利用案内

- 平城宮跡資料館
開館時間／9:00～16:30 (入館は16:00まで) (無料)
休館日／月曜日(祝日・休日の際は開館し、翌平日休館)、年末年始
お知らせ／ボランティアによる解説を行っています。(無料)
お問合せ／奈良文化財研究所研究支援推進部連携推進課：0742-30-6753
- 藤原宮跡資料室
開館時間／9:00～16:30 (無料)
休館日／年末年始および展示替え期間中
お問合せ／奈良文化財研究所都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)：0744-24-1122

- 飛鳥資料館
開館時間／9:00～16:30 (入館は16:00まで)
休館日／月曜日(祝日・休日の際は開館し、翌平日休館)、年末年始
入場料金／一般 270 (170) 円
大学生 130 (60) 円
※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金場合があります。
※障がい者とその介護者 1名は無料
※高校生および18歳未満、65歳以上は無料
お知らせ／解説を行っています。(事前申込制、無料)
お問合せ／飛鳥資料館：0744-54-3561

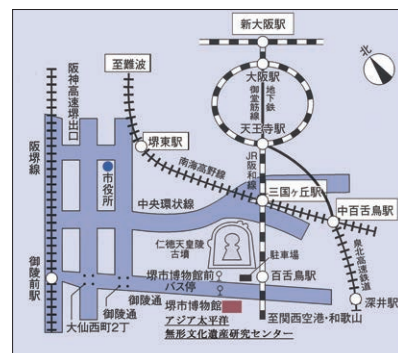


アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)



〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 (堺市博物館内)
TEL : 072-275-8050 (代表)
<http://www.irci.jp>

周辺地図



●JR西日本阪和線・関西空港線「百舌鳥」駅下車徒歩6分
南海バス「堺市博物館前」下車徒歩4分

国立文化財機構は、次のような事業を展開しています。

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点として、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、各国立博物館はその収集方針に沿って適時適切な収集に努めています。

寄贈品や寄託品の受入れについても、文化庁とも連携し、登録美術品制度の活用や相続税の猶予措置などといった税制面での環境整備を進めるなど、積極的に取り組んでいます。

また、国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えていくため、収蔵品等の管理を徹底し、文化財の保存環境を整備するとともに、修理・保存処理を必要とする収蔵品については、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術の担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次計画的に修理を行い、文化財保存修理所等は文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図っています。

■収集

体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の蓄積を図るため、また、有形文化財の散逸や海外流失を防ぐため、有形文化財の収集（購入・寄贈・寄託）に不断的の努力を続けています。

また、4博物館それぞれの特色を生かし平常展をさらに充実させるため、社寺や個人が所有する文化財の寄託を受け入れています。

■保存・修理

有形文化財はおおよそ100年に1回の本格修理を重ね、今日まで伝世しています。機構では日常的な展示・保管のための緊急修理や、収蔵品の損傷の進行状況に合わせた計画的な本格修理を実施しています。

収蔵品

(件)

合 計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
126,872	131	963	116,932	87	634	7,532	28	183	1,883	13	112	525	3	34

(平成28年3月31日現在)

寄託品

(件)

合 計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
12,056	202	1,417	3,072	55	258	6,112	91	820	1,987	54	327	885	2	12

(平成28年3月31日現在)

(2) 展覧事業

常にお客様のニーズ、最新の学術的動向などを踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら質の高い展示、魅力ある展覧会を開催することにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解が深められるよう、国内外への情報発信に努めています。

また、お客様に親しまれる施設を目指し、施設の多言語化、バリアフリー化、各種案内の充実など、より良い観覧環境の整備とお客様の声を伺いながら管理運営の見直し改善を行うなど、常にお客様の立場に立った展覧事業に努めています。

■展示・公開

国宝・重要文化財をはじめとする古美術品や考古資料等の文化財に接し、美や感動を味わっていただくため、各国立博物館の特色を十分に発揮した平常展・特別展等を開催しています。また、海外の博物館・美術館とも協力・連携して、相互に文化を紹介する展覧会を開催しています。

■博物館来館者数（平成27年度）

合 計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
3,987,831人	1,994,508人	653,336人	455,859人	884,128人



特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」
(東京国立博物館) 平成28年3月23日～5月15日



海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」
(中国・上海博物館) 平成28年5月11日～7月10日

(3) 教育普及活動等

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解促進を図るため、学校や社会教育団体などと連携協力しながら、講演会、ワークショップ等の学習機会を提供しています。また、教育活動のさらなる充実を図るためのボランティア活動の支援や、大学との連携事業、博物館関係者・修理技術者等を対象とした研修等による人材育成等の事業も行っています。

また、ウェブを活用した文化財情報の発信や、各種資料の収集と公開、展示や教育事業等の積極的広報を行っています。



京都国立博物館の文化財ソムリエによる訪問授業



奈良国立博物館における修理技術者等を対象とした研修会

(4) 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

有形文化財の収集・保管・展示事業・教育活動等に関する調査研究を計画的に実施し、海外の優れた研究者を招いた国際シンポジウムを開催するとともに職員を海外の研究機関や国際会議に派遣し、先進的かつ有用な情報を集積し調査研究を行っています。

その成果などを刊行物やWebサイトの活用など様々な方法で広く公開することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与しています。



収蔵品・寄託品の調査研究（東京国立博物館における特別調査「工芸」）

(5) 国内外の博物館活動への寄与

収蔵品を国内外でご覧いただけるよう保存状態を勘案しつつ、国内外の博物館等へ積極的に貸与するとともに、指導・助言を行い、情報交換等及び文化財等防災ネットワークの形成に努めています。



第5回アジア国立博物館長会議(ANMA)
平成27年11月26日 シンガポール

2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行っています。

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための

調査研究に取り組んでいます。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与しています。



御坊祭の奴踊り（和歌山県）



端島（軍艦島）の劣化した鉄筋コンクリート造集合住宅

（２）科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、次のような研究開発及び調査研究に取り組んでいます。

- ①文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しています。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与しています。
- ②文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進しています。



可搬型現像装置を用いたX線透過撮影による調査

（３）文化遺産保護に関する国際協働

海外の文化遺産情報の収集・研究・発信や、諸外国での文化遺産保護協力事業実施のほか、文化遺産の保存・修復に関する人材育成や技術移転などの事業を総合的に展開することで、我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、この分野での国際協力を推進しています。また、アジア太平洋地域において活動する研究者や研究機関等を支援し調査研究活動を促進するとともに、関係機関と連携のもと、自然災害等によって危機に瀕したものに重点を置きつつ当該地域の無形文化遺産保護のための調査研究を行うなど、人類共通の財産である有形・無形の文化遺産の保護のための活動を通じて、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献しています。



危機に瀕した無形文化遺産保護のための調査研究（ベトナム・ドンホー村の木版画制作）

（４）文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

文化財に関する資料の収集・整理・保管を行うとともに、情報や調査研究の成果を広く外部に公開・提供するために、文化財に関する資料の電子化の推進及び専門的アーカイブの拡充、公開講演会や国際シンポジウムの開催、各施設ウェブサイトの実装などに取り組んでいます。また、奈良文化財研究所の平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館においては、調査研究成果に関する展示を充実させ、広く一般の方に理解を深めていただけるよう努めています。



東京文化財研究所第49回オープンレクチャーの様子

（５）地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

これまでの調査研究成果を活かし、地方公共団体等のニーズを踏まえた研修を実施し、知識・技術の向上に寄与するとともに、連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材育成を行っています。また、平成23年に発生した東日本大震災では、文化庁の要請により行った文化財等救援活動において、中心的な役割を担いました。この経験を活かし、今後予想される巨大地震等大規模災害に対し文化財等の防災・救援等を行うネットワークを構築するため、全国的な連携・協力体制の整備に向けて調査研究、人材育成等を行っています。



文化財の救援に関する研修の様子（被災した紙資料のクリーニング実習）

TNM 東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



東京国立博物館長
銭谷 眞実

東京国立博物館は、明治5年（1872）に創立された、日本でもっとも長い歴史を持つ博物館です。

数多くの国宝・重要文化財をはじめとした、11万6千件にのぼる文化財を収蔵し、日本を中心に広くアジア諸地域にわたる有形文化財の収集、保存、修復、展示、調査研究、教育普及などの事業を行っています。

当館は、日本随一の収蔵品を活かした展示に加え、季節の催しを実施することでより魅力ある総合文化展を目指しています。昨年10月には平成館考古展示室がリニューアルオープンし、最先端の技術を使用した展示ケースや、触って楽しめるハンズオン展示等を用い、より一層見やすく分かりやすい展示室に生まれ変わりました。

また、展示だけでなく、製作体験などを通して文化財に親しみ理解を深めながら鑑賞をサポートするスクールプログラム、ガイドツアーやワークショップなど様々なプログラムを多数ご用意しています。

東京国立博物館は、子どもから大人まで、そして当館を訪れる世界中の人々にご満足いただける博物館づくりに今後も力を入れてまいります。

■展示・公開

●総合文化展

総合文化展は、当館の収蔵品、寄託品を展示するもので、当館の展示事業の中核を成すものです。年間370回程度の展示替を定期的に実施し、平成28年度は約7,200件の文化財を展示・公開する予定です。

各展示館ごとの特色は次のようになっています。

本 館：2階は縄文時代から江戸時代までの日本美術の流れをたどる時代別展示、1階は彫刻、陶磁、刀剣などのジャンル別展示で構成しています。

東 洋 館：中国、朝鮮半島、東南アジア、西域、インド、エジプトなどの美術と工芸、考古遺物を展示しています。

平 成 館：考古展示室（1階）では、土偶、銅鐸や埴輪をはじめとする旧石器時代から江戸時代までの考古遺物を展示し、企画展示室（1階）では特集や教育普及事業に関連した展示などを行っています。

法隆寺宝物館：奈良の法隆寺から皇室に献納された宝物300件余りを収蔵・展示しています。

表 慶 館：近年は特別展の展示会場として活用しています。

黒田記念館：日本近代画家の黒田清輝の遺言により竣工された建物です。黒田清輝の作品を展示・公開しています。

●特集

総合文化展の一部として、特にテーマ性、企画性の高い内容で構成する特集を行っています（展示期間は予定です）。

- ・「親と子のギャラリー あつまれ！トラのなかまたち」（平成28年4月12日～5月22日）
- ・「平成27年度新収品展」（平成28年5月17日～7月10日）
- ・「根付と置物－象牙彫刻の伝統」（平成28年6月7日～7月31日）
- ・「藤原行成の書 その流行と伝承」（平成28年8月23日～10月2日）

ほか多数

●特別公開

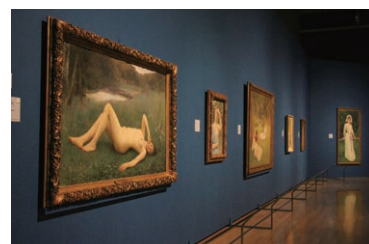
- ・特別公開「縄文の女神」（平成28年3月23日～4月17日）
- ・特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」（平成28年5月17日～7月10日）



考古展示室（平成館1階）



特別公開「縄文の女神」
（平成28年3月23日～4月17日）



特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠」
（平成28年3月23日～5月15日）

●特別展

研究成果の公開の場として、またお客様の要望に応える場として、特別展を開催しています。以下は平成28年度に開催する展覧会です。

- ・特別展「生誕150年 黒田清輝—日本近代絵画の巨匠—」(平成28年3月23日～5月15日)
- ・特別展「黄金のアフガニスタン—守りぬかれたシルクロードの秘宝—」(平成28年4月12日～6月19日)
- ・日韓国交正常化50周年記念 特別展「ほほえみの御仏—二つの半跏思惟像—」(平成28年6月21日～7月10日)
- ・特別展「古代ギリシャ—時空を超えた旅—」(平成28年6月21日～9月19日)
- ・特別展「平安の秘仏—滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち—」(平成28年9月13日～12月11日)
- ・臨済禅師1150年 白隠禅師250年遠諱記念 特別展「禅—心をかたち—to—」(平成28年10月18日～11月27日)
- ・特別展「春日大社 千年の至宝」(平成29年1月17日～3月12日)

●海外展

- ・海外展「菩提の世界：醍醐寺芸術珍宝展」：上海博物館（中国）(平成28年5月11日～7月10日)
- ・海外展「渡海梵音：醍醐寺芸術珍宝展」：陝西歴史博物館（中国）(平成28年7月27日～9月20日)
- ・「日中韓 古代絵画展」(仮称)：中国国家博物館（中国）(平成28年11月5日～12月18日)
- ・海外展「日本美術の粋 東京・九州国立博物館精品展」：台北國立故宮博物院（台湾）(平成28年12月10日～平成29年3月5日)

■文化財の収集・保管・修理

日本を中心とするアジア諸地域の文化財の体系的な陳列を目指し、購入・寄託・寄贈によって、文化財の収集に努めています。年月を経て劣化した文化財を将来にわたって安全に公開できるように、展示室や収蔵庫の環境改善、展示・輸送方法の改良、文化財の状態診断、年間約100件の本格修理や年間約1,000件の対症修理を実践しています。

■教育普及

来館者にとってのよりよい博物館体験の創出を目指して、多くの人々が博物館に親しむを感じられる機会の提供と、日本と東洋の文化の理解を深めるための手助けを行います。学校等との連携やボランティア活動の支援を行うとともに、先導的な事業のモデル化を図り、わが国の中核の博物館にふさわしい教育普及活動を実施します。

- 学習機会の提供
講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、保存修復バックヤードツアー、展示関連イベント
- 教育普及的展示
親と子のギャラリー
- 学校との連携
スクールプログラム（鑑賞支援・職場体験・盲学校対応）
教員研修（全国高等学校美術工芸教育研究会のための研修会ほか）
- 大学との連携
キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ学生の受入
- ボランティア活動
各種教育普及および保存修復事業の補助、館内案内、ガイドツアー等

■調査研究

日本を中心に広くアジア諸地域にわたる文化財について計画的な調査研究を実施し、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や文化活動の助成金も活用しています。

- 平成28年度の研究テーマの一部を紹介します。
- ・日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究
 - ・「藤原行成の書 その流行と伝承」ほか特集に関連する調査研究
 - ・博物館における文化財の情報資源化に関する研究
 - ・特別調査「法隆寺献納宝物」「書跡」「工芸」「彫刻」



キッズデーの様子（平成27年7月27日）



生涯学習ボランティアによる触知図を使った館内案内活動風景



特別調査「書跡」における調査風景

沿革

- 明治5年(1872) 旧湯島聖堂の大成殿で開催された日本初の博覧会を機に、「文部省博物館」として発足
- 明治8年(1875) 内務省所管となる。陳列区分は天産、農業山林、工芸器械、芸術、史伝、教育、法教、陸海部の8部門
- 明治15年(1882) 上野寛永寺本坊跡の現在地に移転
- 明治22年(1889) 宮内省所管の「帝国博物館」となる
- 明治33年(1900) 「東京帝室博物館」と改称
- 明治42年(1909) 表慶館が開館
- 大正12年(1923) 関東大震災により、旧本館が損壊
- 大正14年(1925) 天産部の列品を文部省の東京博物館(現在の国立科学博物館)などに移管
- 昭和13年(1938) 現在の本館が開館
- 昭和22年(1947) 文部省に移管「国立博物館」と改称
- 昭和27年(1952) 「東京国立博物館」と改称
- 昭和39年(1964) 法隆寺宝物館(旧館)が開館
- 昭和43年(1968) 文化庁の発足により同庁に移管。東洋館が開館
- 昭和59年(1984) 資料館が開館
- 平成11年(1999) 法隆寺宝物館が開館、つづいて平成館が開館
- 平成13年(2001) 独立行政法人国立博物館東京国立博物館となる
- 平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館となる

施設概要

施設概要 (m ²)			
土地面積	120,270 (黒田記念館、柳瀬荘含む)		
建 物	建築面積	22,438	延 面 積 72,222
	展示館	展示面積 計 18,199 収蔵庫面積 計 7,836	
本 館	建築面積	6,602	延 面 積 22,416
	展示面積	6,573	収蔵庫面積 4,028
東 洋 館	建築面積	2,892	延 面 積 12,531
	展示面積	4,250	収蔵庫面積 1,373
平 成 館	建築面積	5,542	延 面 積 19,406
	展示面積	4,471	収蔵庫面積 2,119
法隆寺宝物館	建築面積	1,935	延 面 積 4,031
	展示面積	1,462	収蔵庫面積 291
表 慶 館	建築面積	1,130	延 面 積 2,077
	展示面積	1,179	収蔵庫面積 0
黒田記念館	建築面積	724	延 面 積 1,996
	展示面積	264	収蔵庫面積 25
そ の 他	建築面積	3,613	延 面 積 9,765



京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



京都国立博物館長
佐々木 丞平

京都は平安遷都以降、明治維新に至るまで、天皇をいただく皇都であり続けました。この1200年に余る永きにわたり栄えた都としての文化は文字通り日本文化の本流そのものでもありました。

京都国立博物館はこの京都の伝統文化の証としての様々な文化財を中心とし、日本の伝統文化を世界に発信すべく活動が続けてまいりました。今後も「日本の伝統文化を世界へ」を大きな目標とし続けていきたいと思ひます。そのためにはあらゆる人々に関心を持っていただき、博物館に足を運んで頂かなければなりません。私共は「人に優しい博物館」であると同時に「地域に根ざした博物館」を目指します。教育の場であつたり、癒しの空間であつたり、生涯学習の場であつたり、更には国内外からの観光の起点でもありたいと思ひます。平成26年9月には「平成知新館」がリニューアルオープンいたしました。この新しい設備と機能を備えた新館【平成知新館】を、最大限に活用して、皆様に愛される京都国立博物館を目指したいと思ひます。

■展示・公開

●名品ギャラリー

平成26年9月にオープンした「平成知新館」名品ギャラリーでは、陶磁・考古・絵画・工芸・彫刻といった分野ごとに展示室が設けられており、さまざまなテーマのもと、館蔵品・寄託品をあわせ約1万3千件の収蔵品の中から選ばれた作品が展示されており、京文化の神髄が楽しめいただけます。随時展示替が行われており、足を運ぶたび新しい作品との出会いがあります。

●特別展等

- ・特別展覧会「禅一心をかたちの一」（平成28年4月12日～5月22日）
- ・特別展覧会「没後150年坂本龍馬」（平成28年10月15日～11月27日）



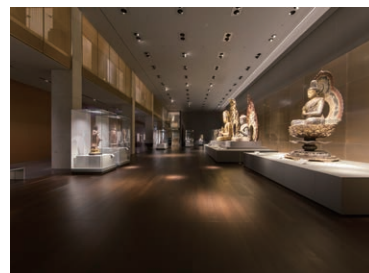
平成知新館



特別展覧会
「桃山時代の狩野派 永徳の後継者たち」
（平成27年4月7日～5月17日）



特別展覧会
「琳派誕生400年記念 琳派 京（みやこ）を彩る」
（平成27年10月10日～11月23日）



名品ギャラリー

■文化財の収集・保管・修理

京都国立博物館では設立以来、社寺に伝来してきた名宝の寄託を多数受けています。また、京都文化に関する美術・考古資料をはじめとする文化財の購入及び寄贈によって、収蔵品は年々増加しています。

こうした文化財を後世に伝えるためには、適切な修理や保存処置を施す必要があります。昭和55年には日本で最初の総合的文化財修理専用施設として、文化財修理業務を開始しました。

■教育普及

展覧会および展示作品への理解を深め、文化財への関心を高めるために、展覧会・ホームページ・教育現場などを通じてさまざまな事業を行っています。



文化財保存修理所

- 展覧会内容および展示作品の理解を深めるための活動
 - ・ 「土曜講座」「記念講演会」などの講演会、京博ナビゲーターによる体験ブース「ミュージアム・カート」の運営、各種ワークショップの実施、鑑賞ガイドやワークシート、博物館ディクショナリー等の配布。
- 文化財への関心を高めるための活動
 - ・ 夏期講座・シンポジウムなどの講演会、高精細デジタル複製美術品を用いた文化財ソムリエによる京都市内小中学校への訪問授業（文化財に親しむ授業）、館外でのワークショップの開催
- 教育機関との連携・協力活動
 - ・ キャンパス・メンバーズ制度、京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座担当、文化財ソムリエの育成、訪問授業、教員に向けた研修会の実施
- ボランティア活動の支援
 - ・ 京博ナビゲーターや文化財ソムリエの運営・育成



少年少女博物館くらぶ
「ドキドキ！刀にふれてみよう」
(平成27年7月19日、20日)



京博ナビゲーターによる
「ミュージアム・カート」
(平成27年度)

■ 調査研究

当館では学芸部研究員を中心に京都市とその周辺に関する古社寺の文化財悉皆調査を昭和54年度から実施しています。平成27年度は京都市左京区に所在する知恩寺の収蔵文化財の追加調査を3日間おこない、工芸作品等に注目される発見がありました。さらに大阪府貝塚市の個人宅においてご所蔵の近世～近代の書画工芸作品の調査を継続的にこなっています。その作品の約半数は博物館に寄贈をされており、さらに将来も寄贈を受ける予定です。その他、館蔵の文化財等についての調査研究を継続しており、展示に反映させたり研究紀要「学叢」にその成果を掲載しています。



貝塚市の個人宅文化財調査風景



京都・らくご博物館



野外オペラ公演

■ その他の活動

○ 京都・らくご博物館

親しまれる博物館づくりの一環として、わが国の伝統文化であり、京都が発祥の地である落語の上演を「京都・らくご博物館」と題して、年4回季節に応じた演目を上演します。このほか、音楽会の開催も予定しています。

沿革

明治22年(1889) 宮内省所管「帝国京都博物館」として設置
 明治30年(1897) 開館
 明治33年(1900) 「京都帝室博物館」と改称
 大正13年(1924) 京都市に下賜し、「恩賜京都博物館」と改称
 昭和27年(1952) 恩賜京都博物館を国に移管し、文化財保護委員会の附属機関として「国立博物館」と改称
 昭和41年(1966) 平常展示館が開館
 昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる
 昭和44年(1969) 特別展示館、表門、同札売場、袖塀が「旧帝国京都博物館」として重要文化財に指定される
 昭和48年(1973) 第1回土曜講座開講
 昭和55年(1980) 文化財保存修理所業務開始
 平成13年(2001) 百年記念館(仮称)新築事業の一環として南門が竣工
 平成13年(2001) 独立行政法人国立博物館 京都国立博物館となる
 平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館となる
 平成21年(2009) 新展示館「平成知新館」建替え工事を開始する
 平成25年(2013) 「平成知新館」竣工(8月)
 平成26年(2014) 「平成知新館」開館(9月)

施設概要

(m ²)			
土地面積			53,182
建 物	建築面積	延 面 積	31,828
展 示 館	展示面積 計		5,657
	収蔵庫面積 計		5,421
明治古都館	建築面積	3,015	延 面 積 3,015
	展示面積	2,070	収蔵庫面積 803
平成知新館	建築面積	5,568	延 面 積 17,997
	展示面積	3,587	収蔵庫面積 2,710
旧管理棟	建築面積	590	延 面 積 1,954
資 料 棟	建築面積	414	延 面 積 1,125
文化財保存修理所	建築面積	728	延 面 積 2,856
技術資料参考館	建築面積	101	延 面 積 304
東収蔵庫	建築面積	1,084	延 面 積 1,996
			収蔵庫面積 1,412
北収蔵庫	建築面積	310	延 面 積 682
			収蔵庫面積 496
そ の 他	建築面積	1,707	延 面 積 1,899

奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています



奈良国立博物館長
湯山 賢一

奈良国立博物館は、明治28年（1895）の開館以来、南都諸社寺の御協力をいただきながら、仏教美術を中心とした文化財の収集・保管・調査研究や教育普及活動を行い、神と仏が融合した我が国の仏教文化のもつ優れた芸術性やその背景にある歴史について紹介してまいりました。今後は、こうした当館の特色を基盤に、様々な文化財と奈良のもつ歴史・文化的景観の有機的な連携を念頭に、新たな奈良文化の発信の拠点として、国際化や情報化への一層の充実に努め、広く国民の皆様にご覧いただける博物館を目指します。

■展示・公開

●仏教美術の展示

当館では、特別展や特別陳列以外にも、国宝・重要文化財を多数含む選りすぐりの仏教美術の名品を公開しています。なら仏像館では、名品展「珠玉の仏たち」と題し、主として飛鳥から鎌倉時代にいたる日本の彫刻史を代表する優れた仏像の数々を展示しています。また、西新館では、名品展「珠玉の仏教美術」と題し、絵画・工芸・書跡・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいべき作品群をご覧いただけます。さらに、随時、ジャンルの枠にとらわれない特集展示なども開催しています。

●特別陳列

各分野で行う中規模のテーマ展示です。

- ・和紙—近代和紙の誕生—（平成28年6月7日～7月3日）
- ・おん祭と春日信仰の美術（平成28年12月10日～平成29年1月15日）
- ・お水取り（平成29年2月7日～3月14日）

●特別展

- ・国宝 信貴山縁起絵巻—朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝—（平成28年4月9日～5月22日）
- ・生誕800年記念特別展「忍性—救済に捧げた生涯—」（平成28年7月23日～9月19日）
- ・第68回正倉院展（平成28年10月下旬～11月上旬）（予定）



特別展「まぼろしの久能寺経に会おう—平安古経展」
平成27年4月7日～5月17日



開館120年記念特別展「白鳳—花ひらく仏教美術—」
平成27年7月18日～9月23日



特別展「第67回正倉院展」
平成27年10月24日～11月9日

■文化財の収集・保管・修理

貴重な国民の財産である有形文化財を守るため、購入・寄贈・寄託により、有形文化財の収集に努力しています。

展示室や収蔵庫においては、常時適切な温湿度管理を実施し、収集した文化財の保存環境にも細心の注意を払っています。

また、我が国に伝わる文化財は紙、木など脆弱な材質のものが多く、これらを後世にいかに関く伝えるかが大きなテーマになっています。当館では平成14年に文化財保存修理所を設置し、文化財の計画的修理を実施しています。



館蔵品「山越阿弥陀図」表打ち

■教育普及

文化財に対する理解を深めるため、様々な教育普及活動に力を入れています。

- ①文化財に関する情報資料の収集と公開
- ②児童・生徒を対象とした事業
主に小学生を対象とした世界遺産学習、教員向け講座
- ③講演会・講座等の実施
公開講座、サンデートーク、夏季講座、正倉院学術シンポジウム、国際研究集会
- ④大学等との連携
キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ学生の受入れ、奈良女子大学及び神戸大学との連携講座
- ⑤ボランティア活動の充実



ボランティア活動



夏季講座「白鳳―歴史と美術」会場風景



調査風景（書跡）



開館120年記念コンサート

■調査研究

文化財に関する調査研究は、研究機関である奈良国立博物館の根幹を支える最も重要な活動です。その成果は名品展や特別展に反映され、展示活動の充実にもつながっています。当館では、平成28年度も以下のテーマで調査研究を行い、着実な成果をあげてまいります。

- ①収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
- ②復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査研究
- ③平安時代の大般若経の総合的調査
- ④仏教工芸・上代工芸の総合的調査
- ⑤墳墓出土品の調査研究
- ⑥特集に関連する調査研究
- ⑦特別展等の開催に伴う調査研究
- ⑧南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
- ⑨東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
- ⑩収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究
- ⑪文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
- ⑫保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
- ⑬歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究
- ⑭文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究

沿革

明治22年(1889)	宮内省所管の「帝国奈良博物館」として設置
明治28年(1895)	開館
明治33年(1900)	奈良帝室博物館と改称
大正3年(1914)	正倉院掛が置かれる
昭和22年(1947)	宮内省より文部省に移管される
昭和25年(1950)	文化財保護委員会附属機関となる
昭和27年(1952)	奈良国立博物館と改称
昭和43年(1968)	文化庁の附属機関となる
昭和47年(1972)	陳列館新館（西新館）竣工
昭和55年(1980)	仏教美術資料研究センター設置
平成7年(1995)	開館百周年記念式典挙行政
平成9年(1997)	東新館、地下回廊竣工
平成12年(2000)	文化財保存修理所竣工
平成13年(2001)	独立行政法人国立博物館 奈良国立博物館となる
平成19年(2007)	独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館となる
平成28年(2016)	なら仏像館リニューアルオープン

施設概要

(m ²)			
土地面積			78,760
建 物	建築面積	延 面 積	19,116
展 示 館	展示面積 計		4,079
	収蔵庫面積 計		1,558
なら仏像館	建築面積	1,512	延 面 積 1,512
	展示面積	1,261	
青銅器館	建築面積	341	延 面 積 664
	展示面積	470	
東 新 館	建築面積	1,825	延 面 積 6,389
	展示面積	875	収蔵庫面積 1,394
西 新 館	建築面積	1,649	延 面 積 5,396
	展示面積	1,473	
仏教美術資料研究センター	建築面積	718	延 面 積 718
文化財保存修理所	建築面積	319	延 面 積 1,036
地下回廊	延 面 積	2,152	収蔵庫面積 164
そ の 他	建築面積	405	延 面 積 1,249

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



九州国立博物館長
島谷 弘幸

九州は日本列島の西端に位置していますが、大陸に近いことから、古くから人とモノの行き来が盛んに行われてきました。この地には古代に外国使節を受け入れた大宰府政庁が置かれていました。そうした歴史的背景や九州の人々の熱望を踏まえて、平成17年に、日本文化の成立をアジア諸地域との関わりで捉えることをコンセプトにした国立博物館が、この福岡県太宰府市に誕生し、昨年、10周年を迎えることができました。

当館は、これまでに1,300万人を超える多くの来館者をお迎えしています。近年は中国や韓国、ベトナム、タイからのお客様が多いのも特色のひとつです。これからも、アジアの文化の相互理解を深める博物館となるために、さまざまな研究や活動を展開し、地域の方々にも開かれた博物館として歩み続けていきたいと思っています。

■展示・公開

●文化交流展（平常展）

文化交流展示室では、展示テーマを決めて期間限定で行うトピック展示を開催し、いつでも新しい展示品に出会える場を皆様にお届けしています。更に、映像や実際に触れることができる展示により、迫力だけでなく臨場感に溢れる展示を推進しています。

●トピック展示（特集陳列）

平成28年度実施予定の主なトピック展示は次のとおりです。

- ・「火縄銃の世界」（平成28年7月12日～平成28年9月4日）
- ・「全国高等学校考古名品展2016」（平成28年7月20日～平成28年9月25日）
- ・「有田焼創業400年記念 旧家の暮らしを彩った器―古伊万里」（仮称）
（平成28年9月14日～平成28年11月6日）
- ・「海の王都・原の辻遺跡と壱岐の至宝～東アジア諸国との交流の歴史～」（仮称）
（平成28年10月11日～平成28年12月4日）
- ・「きらめきで飾る一螺鈿の優品をあつめて―」（仮称）（平成28年11月15日～平成28年12月23日）
- ・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」（平成29年1月1日～平成29年1月29日）

●特別展

特別展は、初めての方でも十分楽しめる、よく知っている方は、更に楽しめる、そんな展覧会を目指して企画・展示を行っています。平成28年度実施予定の特別展は次のとおりです。

- ・「始皇帝と大兵馬俑」（平成28年3月15日～平成28年6月12日）
- ・「東山魁夷 自然と人、そして町」（平成28年7月16日～平成28年8月28日）
- ・「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」（平成28年10月4日～平成28年11月20日）
- ・「宗像・沖ノ島と大和朝廷」（仮称）（平成29年1月1日～平成29年3月5日）

■文化財の収集・保管・修理

●収集

日本とアジア諸国との文化交流のありさまをより分かりやすく示すための資料（美術・考古・歴史及び民族資料等）を重点的に収集しています。また、展示の一層の充実を図るために、積極的に諸機関・社寺・個人に対し、出品・寄託を働きかけていきます。

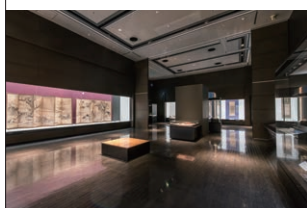
●保管

貴重な文化財を保存・管理する「収蔵庫」は、直接外部と接しないように空気層を設けた二重構造の箱内に設置するとともに建物の中心に配置しています。また、空調設備は恒温恒湿仕様の空調機を採用することにより、庫内温湿度を維持しています。さらに、内装材料は地元九州各地から調達した杉板と調湿材を壁と天井に使用することにより、空調のみに頼らない湿度環境を保っています。

当館は地震時の文化財の転倒などによる破損を防ぐために「免震構造」を採用しています。免震建築物の特徴として、地面上に免震装置を設置していることにより、地震が起きた際に、その上にある建物への地震の揺れが直に伝わるのを防ぎ、ゆっくり揺れることで、文化財を地震から守ることができます。

●修理

6つの文化財保存修復施設（補修紙制作等、古文書・書跡・典籍、絵画、彫刻、考古、漆工）では、伝統的技術と人文科学および科学技術を融合した保存修理を実施しています。実際に修理を行っているのは、国指定文化財の修理実績がある技術者で、歴史、美術、工芸、考古などの各専門分野の研究員と、それぞれの専門的立場から意見を出し合いながら保存修理を進めています。また、最先端の成分分析装置や精密計測技術（蛍光X線分析装置・X線CT装置等）によって、修理対象文化財の科学的調査にも取り組んでいます。



文化交流展（平常展）



トピック展示「太宰府天満宮の地宝」
平成28年1月1日～2月28日



特別展「美の国 日本」
平成27年10月18日～11月29日



ボランティア活動：九博子どもフェスタ

■教育普及・交流活動

●教育普及活動

①体験型展示室「あじっば」での活動

日本と交流のあった諸地域の生活文化を比較体験する体験型展示室で、教育キットの開発や教育機関と連携したプログラムの開発及び一般来館者が博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発等を行っています。

②文化交流特別展・特別展開連プログラム等の開発・実施

- ・展示理解プログラムの開発・実施
- ・ワークショップの実施
- ・ガイドブックの制作

③学校用教育キット「きゅうぱっく」の貸出

④大学等との連携を強めるキャンパスメンバーズ制度の実施

⑤「きゅうはく」の絵本を通じた教育普及活動

⑥ボランティア活動の支援

展示解説・教育普及・館内案内(バックヤードツアーを含む)・環境・イベント活動・資料整理などのボランティア活動を支援しています。

●交流活動

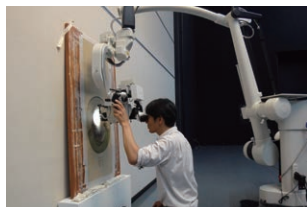
①近隣地域をはじめ、企業等と連携した交流事業の実施や施設の有効活用を図るなど利用サービスの向上に努めています。

②アジアを中心とした博物館交流の推進

・韓国の国立扶餘博物館・国立公州博物館・国立韓国伝統文化大学校、中国の南京博物院・内蒙古博物院・中国文物交流中心・成都博物院、ベトナム国立歴史博物館、タイ文化省芸術局と学術文化協定を締結し、相互交流を推進しています。

③国際シンポジウムの開催

・「アジア博物館長交流サミット」(平成27年10月18日)



重要美術品「ヒポクラテス像」の修理に伴う顔料調査

■調査研究

当館のコンセプトである「日本とアジア諸国との文化交流」に関する調査研究や文化財の保存・修復のための科学的調査研究を実施することにより、その研究成果を文化財の収集・保管・展示に反映させています。また、これらの研究には(独)日本学術振興会による科学研究費助成事業等も活用しています。

- ・X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究
- ・高等学校が所蔵する考古資料に関する研究
- ・水中遺跡の保存活用に関する調査研究
- ・タイの歴史・美術に関する研究

- ・「火縄銃の世界」「きらめきで飾る一螺鈿の優品をあつめてー」(仮称)ほかトピック展示、特別公開に関連する調査研究
- ・高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究
- ・学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
- ・博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究

■刊行物

当館の活動を広く理解してもらうために様々な刊行物を出版しています。

i) 研究紀要「東風西声」

ー九州国立博物館の調査研究成果を冊子にしたもの(年1回発行)

ii) 文化交流展示ビジュアルガイドブック「Asiage(アジアージュ)」

ー文化交流展示(平常展示)を分かりやすく紹介したガイドブック

iii) 季刊情報誌「アジアージュ」

ー各展覧会の紹介を中心とした広報誌(年4回発行)

iv) 「きゅうはく」の絵本

子どもたちに日本の歴史・文化を分かりやすく、親しみをもって理解してもらうために当館独自の絵本を制作しています。

沿革

平成6年(1994)	文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」(以下、「委員会」という。)を設置
平成8年(1996)	文化庁が新構想博物館を九州国立博物館とし、その設置候補地が福岡県太宰府市に決定
平成9年(1997)	同委員会が「九州国立博物館 基本構想」を取りまとめ
平成11年(1999)	委員会が「九州国立博物館 基本計画」を策定
平成12年(2000)	文化庁、福岡県及び財団法人九州国立博物館設置促進財団(以下「財団」という。)が共同で「建築基本設計」を完了
	文化庁と福岡県が共同で設置した「九州国立博物館(仮称)設立準備専門家会議」が「常設展示計画」を策定
平成13年(2001)	文化庁、福岡県及び財団が共同で「展示基本設計」を完了
	独立行政法人国立博物館(以下「国立博物館」という。)が「九州国立博物館設立準備室」を設置
平成14年(2002)	文化庁、福岡県及び財団が共同で「建設工事(3年計画の第一年次)」に着手
平成15年(2003)	国立博物館及び福岡県で「展示工事(2年計画の第一年次)」に着手
平成16年(2004)	文化庁、福岡県及び財団が「建設工事」を完了(建物が完成)
	文化庁、国立博物館及び福岡県が正式名称を「九州国立博物館」と発表
平成17年(2005)	国立博物館及び福岡県が「展示工事(2年計画の第二年次)」を完了

国立博物館が九州国立博物館を設置。
10月16日 一般公開開始
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館となる
九州国立博物館で日中韓首脳会議を開催
来館者1,000万人達成
開館10周年

平成19年(2007)
平成20年(2008)
平成24年(2012)
平成27年(2015)

施設概要

(m ²)			
土地面積			
	法人 10,798		県 155,679
建 物			
		建築面積	14,623
		延 面 積	30,675
	法人 9,300	県 5,780	共用 15,595
展示・収蔵面積			
		展示面積 計	5,444
	法人 3,844	県 1,375	共用 225
		収蔵庫面積 計	4,518
	法人 2,744	県 1,335	共用 439

※土地・建物は福岡県と法人が有しています。

東京文化財研究所



東京文化財研究所長
亀井 伸雄

東京文化財研究所は、国の文化財行政を支える役割を果たすべく、有形・無形の様々な文化財全般について基礎的・体系的・先端的・実践的な調査研究を進めています。得られた成果等については、これを積極的に公表するとともに、地方公共団体等への文化財保護に関する指導・助言を行い、さらには、アジアを中心とする諸外国における文化財の保護に関して、人材育成や保存修復技術の移転といった国際協力事業を実施しています。

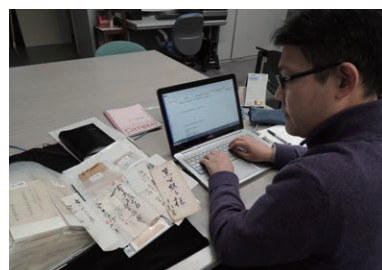
当面の重点課題としては、多年にわたり当研究所に蓄積されてきた各種の調査研究成果や基礎資料等アーカイブ構築を図るとともに、保存修復の分野においては、博物館資料の保存・修復・公開等に関する調査研究も視野に入れた国立文化財機構全体としての一体的な役割の推進、さらに、無形の文化財に関しては、芸能や伝統的な技術を中心に全国的な基礎資料の収集と公開などに力点を置いて調査研究を行っています。

このほか、海外の文化遺産の保護に関し、わが国としての一体的・効果的な国際貢献を推進するための拠点組織である「文化遺産国際協力コンソーシアム」の事務局が当研究所内に置かれています。

■研究組織

●文化財情報資料部

文化財情報資料部は、文化財研究のためのアーカイブの拡充を図るため、文化財に関する資料の収集・蓄積・整理・公開、そして効果的な情報発信方法の研究を進めています。同時に、文化財学や美術史研究等の今日的な課題にも取り組み、新しい資料学の確立を目指しています。これらの成果を基に、研究所全体の情報システムの管理や広報活動を担っています。



洋画家、黒田清輝に宛てられた書簡の調査

●無形文化遺産部

無形文化遺産部は、無形文化財、無形民俗文化財及び文化財保存技術という日本の無形文化遺産全般を対象として、その保存継承に役立つような基礎的な調査研究を実施しています。また無形文化遺産の重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っています。



講談の一龍斎貞水師(左)と神田松鯉師(右)

●保存科学研究センター

保存科学研究センターは、文化財の保存のために、それを取りまく保存環境や科学的な調査手法の研究を、また文化財の修復のために、その性質、製作技法と置かれた環境の調査、必要な修復材料・技法の改良と開発評価およびメンテナンス手法の開発を行っています。これらの調査研究は文化財の所蔵者や保存修復現場の方々と密接に協力しながら進めています。



調査風景(可搬型X線回折分析装置による分析)

●文化遺産国際協力センター

文化遺産国際協力センターは、アジア諸国をはじめとする世界各地での人材養成・技術移転を含む保存修復事業への協力、研究会の開催などによる国内外の機関との連携の推進、諸外国の文化遺産や保護制度に関する情報の収集・発信を行っています。また文化遺産国際協力コンソーシアム事務局を受託運営しています。



壁画修復材料調整の実習風景(ミャンマー・バガン、No.1205寺院)

■研修・助言・指導

東京文化財研究所では文化財の保護とその活用を目指し、「国際研修 紙の保存と修復」「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」「無形文化遺産保護に対する助言・指導」「博物館・美術館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」など、さまざまな研修・助言・指導を行っています。



紙本絹本文化財の保存と修復



博物館・美術館等保存担当学芸員研修



第49回オープンレクチャーの案内

■大学院教育・公開講座

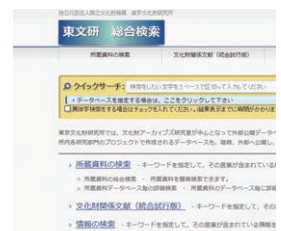
東京文化財研究所では次世代の人材育成や研究成果の社会的還元を目指し、大学院教育や公開講座を行っています。

大学院教育は、平成7年より東京藝術大学と連携し、システム保存学コースを開設しています。

また公開講座は、文化財情報資料部と無形文化遺産部がそれぞれ毎年開催しています。

■情報発信

東京文化財研究所では調査研究、国際協力など、さまざまな活動の成果を積極的に発信・公開する取り組みを進めています。また『年報』『概要』『東文研ニュース』などの広報誌を刊行するとともに、ホームページの充実に努めています。



東京文化財研究所総合検索
(<http://www.tobunken.go.jp/archives/>)

■刊行物

東京文化財研究所では定期刊行物として『美術研究』『日本美術年鑑』『無形文化遺産研究報告』『保存科学』を刊行しています。そのほか、さまざまな研究成果を一般にも入手しやすい刊行物の形として公表しています。



美術研究



日本美術年鑑



無形文化遺産研究報告



保存科学

沿革

昭和5年(1930) 帝国美術院に附属美術研究所が設置される
昭和22年(1947) 国立博物館附属美術研究所となる
昭和25年(1950) 文化財保護委員会の附属機関となる
昭和27年(1952) 美術研究所は東京文化財研究所となる
昭和29年(1954) 東京文化財研究所は東京国立文化財研究所となる
昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる
平成12年(2000) 新館庁舎(新館)竣工・移転
平成13年(2001) 独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所となる
平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所となる

施設概要

		(m ²)
土地面積		4,181
建 物	建築面積	2,258
	延 面 積	10,516

奈良文化財研究所



奈良文化財研究所長
松村 恵司

奈良文化財研究所は、貴重な文化財を実物に即して総合的に研究する組織で、平城宮跡や藤原宮跡の発掘調査をはじめ、建造物、古文書などの個々の文化財の調査研究、そして飛鳥保存のための調査研究と展示普及などを行っています。これらは、国内外の文化財研究、学術交流、国際支援にも大きく寄与し、中国や韓国の文化財研究所との恒常的な共同研究としても結実しています。また、新たな発掘技術と研究方法の開発、自治体専門職員への指導と研修なども行っています。遺跡の保護のために研究所が開発した保存、修復、整備の技術は、全国各地はもちろん世界の遺跡でも活かされています。これらの調査研究は、当研究所の特徴である異なった分野の学際的な共同研究によって支えられています。当研究所は、それらを最大限に活かし、文化財保存のための研究を一層充実してまいりたい所存です。

●企画調整部

企画調整部は、企画調整室、文化財情報研究室、国際遺跡研究室、展示企画室、写真室で構成されています。各研究室は、地方公共団体文化財担当職員等を対象とした専門研修の企画、情報システムの整備と各種データベースの公開、遺跡等に関する国際的な共同研究や協力、平城宮跡資料館等での研究成果の公開普及、写真の作成と新技術の開発などの業務を担っています。

●文化遺産部

文化遺産部は、歴史研究室、建造物研究室、景観研究室、遺跡整備研究室を置き、それぞれが、「書跡・典籍・古文書・歴史資料」、「歴史的建造物・伝統的建造物群」、「文化的景観」、「遺跡整備・庭園」について、専門的かつ総合的な調査研究を行っています。各研究室における多様な調査研究の成果は、文化財の指定・登録・選定やその後の保存と活用に関する方策など、国の文化財保護行政にも大きく資するものとなっています。また、地方公共団体の文化財行政に対しても、協力・助言等で貢献しています。

●都城発掘調査部

都城発掘調査部は考古第一・考古第二・考古第三・史料・遺構の各研究室で構成され、平城地区と飛鳥・藤原地区に所在する古代宮殿や寺院、墳墓などで行う発掘調査に基づいて、学際的な調査研究を推進しています。その成果については説明会や報告書、展示などで公開するとともに、遺跡の保存・活用に関する研究にも取り組んでいます。

【平城地区】

奈良時代（710～784）の天皇の宮殿と中央官庁があった特別史跡平城宮跡の発掘調査とそれに基づく研究を主に担当しています。昭和34年（1959）から計画的な調査を継続し、これまでに130haに及ぶ平城宮跡の3分の1以上の発掘を進めてきました。平城宮跡や寺院の遺跡等で発掘された建物等の遺構、ならびに木簡や木製品・土器・瓦等の遺物をもとに、文献とも照合した実証的な奈良時代研究は、高く評価されています。また、平城宮跡を国営公園として整備している国土交通省に対し、整備の基礎資料となる平城宮跡の研究成果を提供しています。

【飛鳥・藤原地区】

わが国の古代国家成立期である7世紀から8世紀初頭にかけて、政治・経済・文化の中心地であった飛鳥・藤原地域の発掘調査とそれに基づく研究を担当しています。飛鳥地域には、宮殿や豪族の居館、飛鳥寺等の寺院のほか、銭貨や硝子などの工芸品を製作した総合工房や漏刻（水時計）台、墳墓などの遺跡があり、その北方には、わが国最初の本格的都城である藤原京が方5km以上の範囲に広がっています。飛鳥・藤原地域の遺跡の発掘調査に基づく実証的・学際的な研究は、飛鳥時代の歴史の解明に大きく貢献しています。



平城宮跡資料館秋期企画展



遺跡整備工事での指導



平城宮第一次大極殿院西面回廊の発掘調査



藤原宮大極殿院内庭の発掘調査

●埋蔵文化財センター

4室で構成される埋蔵文化財センターでは、各室が以下の研究を実施しています。保存修復科学研究室では、考古資料の材質や構造を解明して適切な保存修復等を行うため、分析法の開発と実用化に向けた研究を行っています。環境考古学研究室では、動植物遺存体による古環境の復元的研究を行っています。年代学研究室では、年輪年代学に関する基礎的研究を進めるとともに、その成果を考古学、建築史学等へ応用しています。遺跡・調査技術研究室では、遺跡の調査技術や計測・探査技術の研究・開発に加え、災害考古学の調査・研究にも取り組んでいます。

●飛鳥資料館

飛鳥資料館は、飛鳥の歴史を紹介するための展示施設として、昭和50年（1975）に開館しました。常設展示として宮都・石造物・古墳・寺院などのテーマ毎に出土品などを展示するとともに、保存処理を行った山田寺東回廊の出土部材を復元展示しています。年に2回、春と秋に開催している特別展では、飛鳥の歴史や出土文化財に焦点を当てた展示を行い、また夏と冬には、奈良文化財研究所の多様な研究成果をわかりやすく伝える企画展を開催しています。

●国際学術交流

奈良文化財研究所で現在実施している国際交流・協力事業は、学術共同研究、研究員交流、技術研修、保存修復などであり、ユネスコ・アジア太平洋文化センター（ACCU）など他機関が行う国際協力事業にも協力しています。

独自事業としては、①中国社会科学院との北魏洛陽城の都城遺跡の共同調査、②中国河南省文物考古研究所との鞏義市黄冶・白河窯跡の共同調査、③中国遼寧省文物考古研究所との東晋十六国期の各種遺跡の共同調査、④韓国国立文化財研究所との都城の比較研究ならび発掘調査人材交流、⑤カンボジア・アンコール・シェムリアップ地域文化財保護管理機構（APSARA）と連携したアンコール遺跡群・西トップ遺跡の研究調査・保存事業と人材育成を行っています。また、文化庁から受託した拠点交流事業として、ミャンマー文化省考古・国立博物館局と共同で遺跡の発掘調査法・出土遺物の調査研究法に関する技術移転・人材育成事業を行っています。



五塚原古墳（京都府向日市）でのレーザー探査



飛鳥資料館



アンコール西トップ遺跡保存事業

沿革

昭和27年(1952)	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室・美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室）を奈良市春日野町50に設置
昭和29年(1954)	奈良国立文化財研究所と改称
昭和35年(1960)	奈良市佐紀東町の平城宮跡に発掘調査事務所を設置
昭和38年(1963)	平城宮跡発掘調査部を設置
昭和43年(1968)	文化庁が発足 その附属機関となる
昭和45年(1970)	平城宮跡資料館を開館
昭和48年(1973)	会計課・飛鳥藤原宮跡発掘調査部・飛鳥資料館（準備室）を設置
昭和49年(1974)	庶務部（庶務課・会計課）と埋蔵文化財センターを設置
昭和50年(1975)	奈良県高市郡明日香村奥山に飛鳥資料館を開館
昭和55年(1980)	美術工芸研究室を奈良国立博物館の仏教美術資料研究センターに移管
昭和55年(1980)	庁舎を奈良市二条町に移転 平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センターを庁舎に移転統合
昭和63年(1988)	飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎を橿原市木之本町94-1に新営
平成13年(2001)	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所となる
平成19年(2007)	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所となる
平成25年(2013)	本庁舎地区再開発計画に伴い、奈良市佐紀町247-1の仮設庁舎に移転

施設概要

施設概要	土 地	(m ²)	
		建 物	
本館地区	8,860	建築面積	現在、建替中
		延 面 積	
平城宮跡資料館地区	(文化庁所属の国有地を無償使用)	建築面積	13,328
		延 面 積	21,395
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	20,515	建築面積	6,016
		延 面 積	9,477
飛鳥資料館地区	17,093	建築面積	2,657
		延 面 積	4,404

アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)

International Research Centre for Intangible Cultural Heritage
in the Asia-Pacific Region



アジア太平洋無形文化
遺産研究センター所長
岩本 渉

アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）は、平成21年10月の国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）総会にて「ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際協力センターの設置承認」を受け、翌年8月に締結された日本政府とユネスコ間の協定に基づき、平成23年堺市に開所したユネスコカテゴリー2センター（ユネスコと協力してプログラムを実行する機関）です。

IRCIでは主にユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」の方針に沿って、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に向けた調査研究に従事する研究者や研究機関を支援し、当該分野における研究の充実を使命とする国際拠点として活動しています。昨今、世界各地で様々な理由により危機に瀕している無形文化遺産が少なくありません。当センターは、日本及びアジア太平洋地域の大学、研究機関等と協力しつつ、無形文化遺産の保護に関する実践及び方法について調査研究を推進しています。

■平成27年度の活動内容

アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）では、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究拠点として、次のような行動計画に沿って調査研究を推進するとともに、国際的動向の情報収集や我が国の知見を活用した無形文化遺産保護の充実につとめています。

1. アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の把握と検討
2. アジア太平洋地域における危機に瀕する無形文化遺産の保護の実態や方法の調査研究
3. アジア太平洋地域におけるユネスコカテゴリー2センターとしての役割を踏まえた、堺市が実施する普及啓発活動などとの連携

上記行動方針に基づき、平成27年度は次のような活動を行いました。

●行動計画1（アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究の把握と検討）

1. 国際専門家会合「無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護研究の現状と課題について、11カ国から専門家を招いて討議を行いました（キルギス共和国・ビシュケク 平成27年12月8日～9日）。
2. 研究データベース「Research Database on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region」の構築
これまで収集してきた研究者・研究機関についての情報を整理し、平成26年9月25日より検索可能な研究データベースとして、IRCIウェブサイトでの公開を開始しました。現在約1,300件のデータを収録しています（<http://ichdb-irci.org/>）。

●行動計画2（アジア太平洋地域における危機に瀕する無形文化遺産の保護の実態や方法の調査研究）

1. 大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究
無形文化遺産の保護に関する国内法が整備されていない国が多く、こうした国々からの協力要請に応えること、そして無形文化遺産の保護に向けた法的・政策的な枠組みを強化することを目的としています。九州大学大学院法学研究院の協力のもと、カンボジア、ラオス、ミャンマーを中心に8カ国から研究者と法整備担当行政官を招き、ワークショップを開催し、法整備の最新状況の把握と課題の分析を行いました。本ワークショップは、地方自治体として工芸の復興に力を入れている富山県の協力を得て実施さ



国際専門家会合
（平成27年12月 キルギス共和国・ビシュケク）



メコン法整備支援ワークショップ
（平成27年12月 富山県）

れました（富山県民会館 平成27年12月17日～19日）。今後、法整備を行う国々が参考にできるマニュアル型のキット作成と、各国の法整備の比較研究を実施していきます。

2. 紛争後の国家における危機に瀕する伝統的手工芸（スリランカ）

紛争終結地域においては、継承者の死亡による減少や難民化など、無形文化遺産が消滅の危機に直面します。これまでにユネスコの要請を受け、スリランカ北部、北東部などの工芸の継承についての調査を行い、実態把握を行いました。この実態調査に基づき、復興のための実践的研究と方策を議論しました。スリランカナショナルクラフトカウンシルの専門家と、生存する2名の女性工芸家が参加しました（富山県民会館 平成27年12月19日～20日）。

3. ベトナム・ドンホー版画を事例とする危機に瀕する無形文化遺産のための保護措置の研究（ベトナム）

平成25年度以来、ベトナム文化芸術研究院（VICAS）との連携のもと実施している、継承が危機的な状況に置かれているドンホー村の木版画に関する事業について、最終報告書出版に向けた編集会議を行いました（黒田記念館及び東京国立博物館 平成28年2月15日～18日）。会議のなかでは、事業成果についてのまとめや今後のVICASとIRCIの協働についても議論しました。



伝統工芸の工房視察
（平成27年12月 富山県）



スリランカの工芸復興研究事業
（平成27年12月 富山県）

●行動計画3（堺市が実施する普及啓発活動などとの連携）

東京シンポジウム「文化遺産を考える」

堺市と独立行政法人国立文化財機構の共催シンポジウムに、荒田明夫前所長がパネリストとして参加しました（東京国立博物館平成館大講堂 平成27年5月20日）。このシンポジウムには約250人が参加し、ロビーにはIRCIの活動を紹介するパネルが展示されました。



東京シンポジウム
（平成27年5月 東京都）

●情報発信

ウェブサイトでの多言語配信

上記のほか、IRCIでは、その活動成果を広く公開するために、ウェブサイトの多言語配信を行っています。

日本語・英語・クメール語・シンハラ語・タイ語・タミル語・ベトナム語・ラオ語に加え、ウルドゥ語、ヒンディー語、ミャンマー語の情報提供を開始しました（<http://www.irci.jp>）。

●その他

平成27年9月25日に開催された第4回運営理事会において、平成28年度から平成32年度までの中期計画が承認されました。平成28年度からは下記の行動計画を軸に研究活動を実施してまいります。

1. アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に向けた研究の活性化
2. アジア太平洋地域における無形文化遺産と自然災害等に関する調査研究
3. アジア太平洋地域におけるユネスコカテゴリー2センターとしての役割を踏まえた、堺市が実施する普及啓発活動などとの連携

沿革

平成21年(2009)10月	センター設立がユネスコ総会で承認
平成22年(2010)8月	日本政府とユネスコ間でのセンター設立に関する協定締結
平成23年(2011)3月	堺市と国立文化財機構間でのセンター開設に関する協定締結
平成23年(2011)4月	アジア太平洋無形文化遺産研究センター設置準備室設置
平成23年(2011)10月	アジア太平洋無形文化遺産研究センター開所

施設概要

		(m ²)
建 物	建築面積	244.67
	延面積	244.67
総室数		4 室

※建物は大阪府堺市から借用しています。

IV 資料

役員（平成28年4月1日現在）

理事長（京都国立博物館長）	佐々木 丞 平	理 事	渡 邊 妙 子
理 事（奈良文化財研究所長）	松 村 恵 司	監 事	久留島 のり 子
理 事	池 原 充 洋	監 事	中 もと 文 徳

運営委員会（平成28年4月1日現在）

国立文化財機構の運営について各界からご意見を伺うべく、外部有識者による運営委員会を設置しています。
運営委員会は、機構の管理運営に関する重要事項について審議を行うとともに理事長に助言することを任務としています。
委員は20名以内で、任期2年（再任可）。

安 藤 裕 康	独立行政法人国際交流基金理事長	清 水 眞 澄	三井記念美術館長
石 澤 良 昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長	白 石 太一郎	大阪府立近つ飛鳥博物館長
今 村 峯 雄	国立歴史民俗博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授	た 田 征 夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長
風 岡 典 之	宮内庁長官	檀 ふ み	女優
神 居 文 彰	平等院住職	林 田 ス マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長
唐 池 恒 二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	藤 井 譲 治	石川県立歴史博物館長
佐 藤 宗 諄	奈良女子大学名誉教授	馬 瀧 明 子	独立行政法人国立美術館理事長
佐 藤 禎 一	国際医療福祉大学大学院教授		

（敬称略）

外部評価委員会（平成28年4月1日現在）

国立文化財機構では、機構の業務、調査・研究の実績について、自己点検評価を行うとともに、このことを検証し、適正な評価を行うために外部有識者による外部評価委員会を設置しています。
委員は任期2年（再任可）。

委員長	小 林 忠	学習院大学名誉教授・岡田美術館館長	坂 本 弘 子	朝日新聞社執行役員（企画事業担当）
副委員長	河 合 正 朝	慶應義塾大学名誉教授・千葉市美術館館長	佐 藤 信 子	東京大学大学院人文社会系研究科教授
	鮎 川 眞 昭	公認会計士	た 玉 蟲 敏 子	武蔵野美術大学造形学部教授
	石 川 日出志	明治大学文学部教授	な 名 児 郎 明	公益財団法人五島美術館常務理事・副館長兼学芸部長
	岡 田 保 良	国土館大学イラク古代文化研究所教授	は 浜 田 弘 明	桜美林大学教授
	さい 藤 努	国立歴史民俗博物館研究部教授	ふ 藤 田 治 彦	大阪大学大学院文学研究科教授
	榎 原 悟	岡崎市美術博物館館長	柳 林 修	読売新聞大阪本社記者

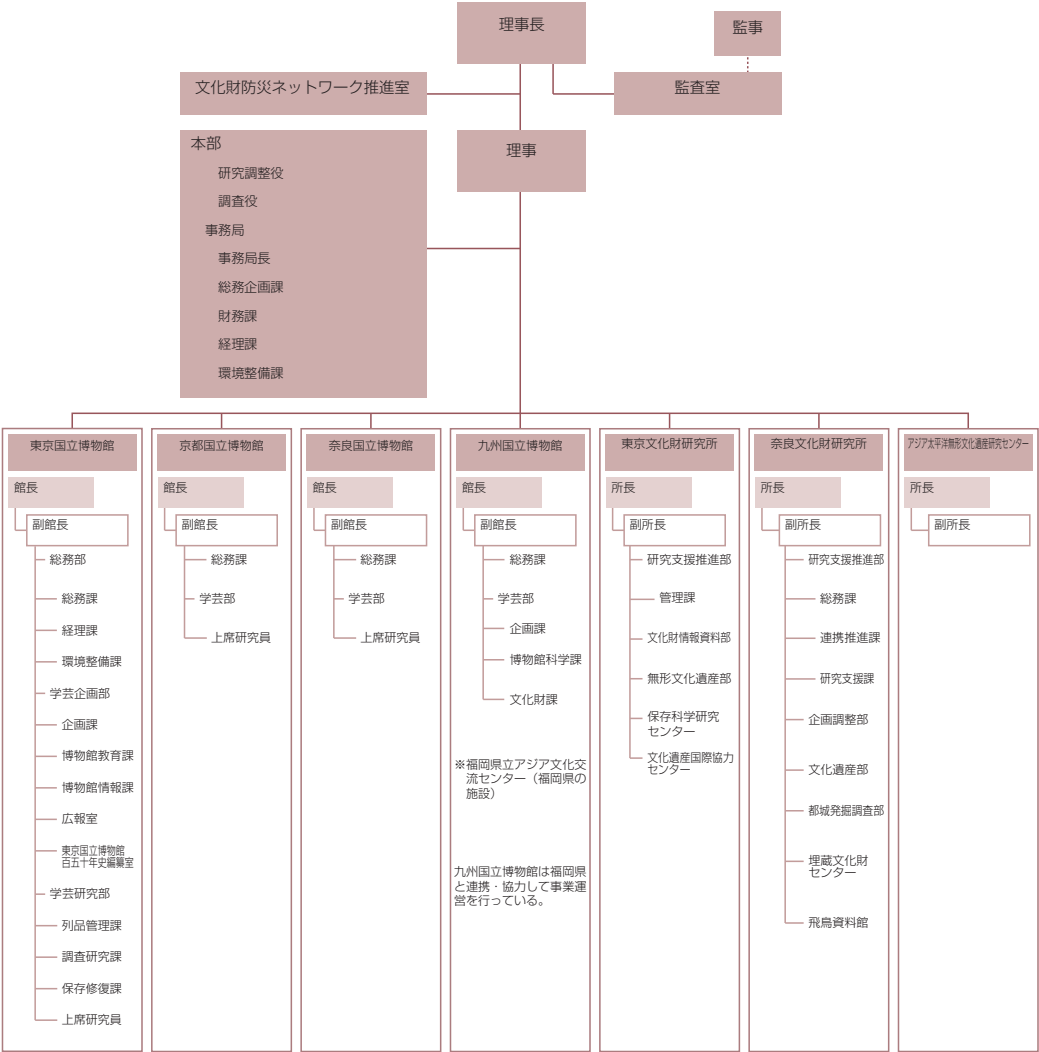
（敬称略）

職員数

区 分	職員	一般職	技能・労務職	専門職	研究職
計	330	131	19	2	178
本部事務局	22	22	0	0	0
東京国立博物館	94	33	11	2	48
京都国立博物館	36	18	4	0	14
奈良国立博物館	33	15	4	0	14
九州国立博物館	27	10	0	0	17
東京文化財研究所	39	8	0	0	31
奈良文化財研究所	76	23	0	0	53
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	3	2	0	0	1

（平成28年4月1日現在）

組織図



(平成28年4月1日現在)

予算

平成28年度予算

収入予算額

(単位：千円)

	平成28年度	平成27年度
自己収入	1,474,731	1,322,634
運営費交付金	8,387,941	8,440,731
受託収入	576,849	26,000
施設整備費補助金	1,334,381	2,920,551
その他寄附金等	350,531	0
合計	12,124,433	12,709,916

支出予算額

(単位：千円)

	平成28年度	平成27年度
運営事業費	9,862,672	9,763,365
人件費	3,472,102	3,249,769
物件費	6,390,570	6,513,596
受託事業費	576,849	26,000
施設整備費	1,334,381	2,920,551
その他寄附金等	350,531	0
合計	12,124,433	12,709,916

外部資金受入

施 設	科学研究費				受託研究費（27年度）		研究助成金（27年度）	
	①科学研究費補助金 （28年度）		②学術研究助成基金助成金 （28年度）					
	件数	金額（千円）	件数 （括弧は左の内数）	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
本部事務局	0	0	0（0）	0	1	18,221	1	158,441
東京国立博物館	14	61,790	12（5）	16,510	1	5,684	7	24,969
京都国立博物館	3	15,470	5（1）	6,370	0	0	3	10,977
奈良国立博物館	1	5,850	1（0）	650	0	0	4	9,490
九州国立博物館	4	36,660	3（0）	4,550	4	41,459	2	700
東京文化財研究所	10	29,965	16（2）	17,940	22	254,270	2	900
奈良文化財研究所	19	96,170	42（7）	57,330	32	223,008	6	4,350
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0	0	0（0）	0	1	51,455	1	5,000
計	51	245,905	79（15）	103,350	61	594,097	26	214,827

※①の金額は、当初の交付決定額の28年度分の金額です。
※②の金額は、複数年度の事業の場合、当初の交付決定時に各年度分の交付額が示される。
※同一の研究課題で①と②の両方が交付されるもの（一部基金分）の件数はそれぞれに含み、②の件数の括弧書きは共通するものの内数である。
また金額には間接経費を含む。
※受託研究費は機構内の委託を除きます。

国立文化財機構からのお知らせ

○寄附・寄贈

【寄 附】

独立行政法人は国から運営費交付金や施設整備費補助金を得て事業運営していますが、厳しい財政状況や効率化を図る観点から、広く外部資金を導入し経営に役立てることが求められています。国立文化財機構も例外ではなく、入場料以外にも収入の道を確保しなければなりません。このような趣旨から、個人・団体を問わず広く皆様にご支援をお願いしています。

国立文化財機構は、税法上の優遇措置の対象となる「特定公益増進法人」となっており、機構へ寄附を行う個人・団体は、当該寄附金について一般の法人に対する寄附金とは異なる所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

▶所得税

個人が特定公益増進法人等に寄附を行った場合には、一定額を所得税の課税所得から控除することが出来る「寄附金控除」の制度が設けられています。この「寄附金控除」については、平成22年度税制改正において、適用下限額が5千円から2千円に引き下げられました。これにより、特定公益増進法人等に対する寄附金の額が年間合計で2千円を超えれば減税の対象となりました。
⇒「寄附金（総所得金額等の40%を限度）－2千円」を所得から控除することができます。

▶法人税

法人が特定公益増進法人等に寄附を行った場合には、支出した特定公益増進法人等への寄附金額を、一般の寄附金とは別枠で損金に算入することができます。また、平成23年度12月期税制改正では、さらに寄附金の優遇措置の拡充が図られ、寄附金の損金算入限度額が拡大されました。
⇒ 特別損金算入限度額＝「（資本金等の金額×0.375%（改正前0.25%）＋所得金額の6.25%（改正前5%））×1/2」

【寄 贈】

国立文化財機構では、文化財を保存・管理、調査研究、展示などでの公開に活用しています。これらの事業を行うため文化財を計画的に購入するほか、文化財を所有される方からのご寄贈も頂いております。

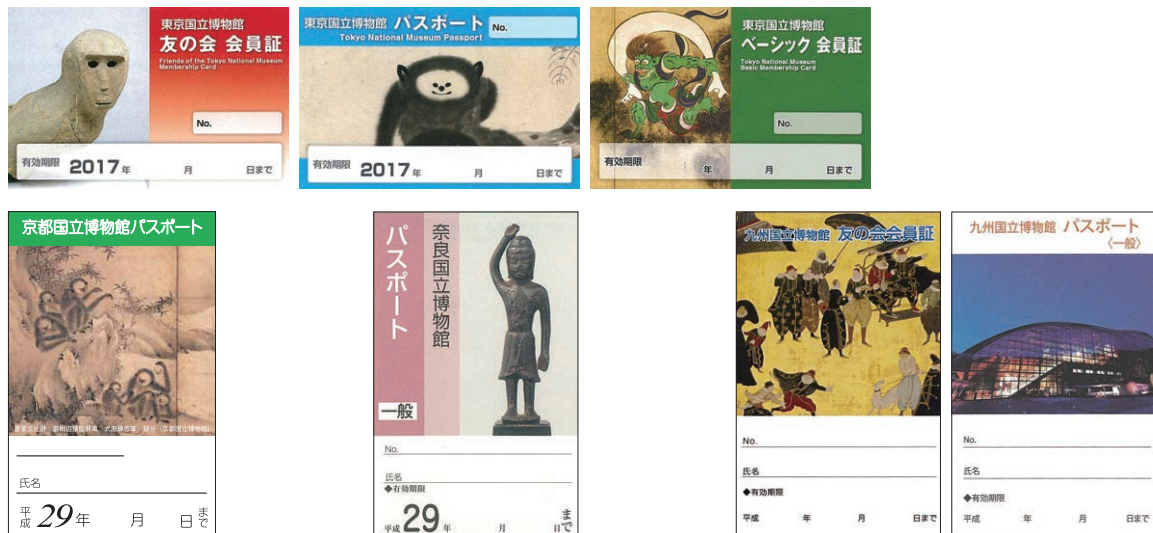
ご寄附・ご寄贈に関するご相談や手続きについては、以下にお問い合わせください。

施設名	寄附	寄贈	お問い合わせ
東京国立博物館	総務部経理課	学芸研究部列品管理課	03-3822-1111（代表）
京都国立博物館	総務課財務係	学芸部列品管理室	075-541-1151（代表）
奈良国立博物館	総務課財務係	学芸部企画室	0742-22-7772(寄附・直通) 0742-22-7774(寄贈・直通)
九州国立博物館	総務課財務係	文化財課資料登録室	092-918-2807（代表）
東京文化財研究所	研究支援推進部管理課企画渉外係		03-3823-2249（直通）
奈良文化財研究所	研究支援推進部総務課		0742-30-6732（直通）
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	総務担当		072-275-8050（直通）
（施設を特定しない場合）	本部事務局財務課		03-3822-2439（直通）

○会員制度

広くご支援を頂き運営基盤を確保するため、東京国立博物館・奈良国立博物館では賛助会員制度を設けているほか、京都国立博物館では一般社団法人清風会による支援を頂いております。

また、お客様により博物館に親しんでいただくために、友の会・パスポート制度を設けております。皆様のご利用をお待ちしております。



【キャンパスメンバーズ】

各国立博物館では、大学や専修学校等を対象としたキャンパスメンバーズ制度を設けております。本制度は大学等と博物館との連携を深め、学生の皆さんにより博物館に親しんでいただく機会を提供することを目的としています。

学生数に応じた年会費をお支払いいただくことにより、平常展（総合文化展、名品ギャラリー、名品展、文化交流展）を無料でご観覧いただけるなど各博物館で様々な特典をご用意しています。詳しくは以下にお問い合わせください。

○ユニークベニュー

各国立博物館では、施設をイベントの会場として活用するユニークベニューとしての施設利用を推進しております。企業のパーティーや野外映画上映会など、館内の施設をさまざまな用途にご利用いただいております。



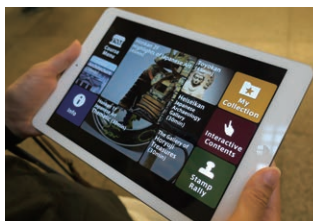
東京国立博物館における海外ブランドのスペシャルエキシビジョン



京都国立博物館におけるハイジュエリーイベント

○海外からのお客様への対応

各国立博物館とも、多言語による解説・ご案内等により海外からのお客様へ快適な観覧環境を提供しています。



東京国立博物館での英語による館内ガイドアプリ



JR 上野駅公園口、または鶯谷駅下車 徒歩 10 分

東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅、

千代田線根津駅下車 徒歩 15 分

京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩 15 分

独立行政法人

国立文化財機構

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13 番 9 号

電話：03-3822-1196

URL：http://www.nich.go.jp/